

アジアの都市問題に取り組む「ハビタット工学」教育プログラムの開発・実践・展開

九州大学大学院人間環境学府 都市共生デザイン専攻・空間システム専攻 殿

本「ハビタット工学」教育プログラムは、アジアの都市問題・居住問題における専門家育成の国際的ニーズを背景に、学際的専門知識の習得とアジア都市のフィールド体験・実践による、鳥瞰力、実践力、国際力の3つの力の育成を教育目標に掲げ、総合的・体系的な教育プログラムとなっている。受賞者は、都市建築学の計画・環境・構造系が協同して包括的に取り組む新しい学問領域を「ハビタット工学」として提案し、アジアを中心に国際展開への基盤づくりを行ってきたものである。このプログラムは2008年～2010年の大学院GPに採択された「アジア都市問題を解くハビタット工学教育」により開始し、終了後は人間環境学府の2専攻—都市共生デザイン専攻、空間システム専攻を横断する「持続都市建築システムプログラム」の科目群として継続しており、今後の発展が期待できるものとなっている。

建築学会の教育賞にふさわしい優れた内容として以下3点をあげることができる。

第1は、九州大学の地理的優位性にふさわしく、アジア地域の都市問題・居住問題を取り上げ、専門家育成という国際的ニーズに対応した教育プログラムになっていることである。アジア地域の都市・居住問題は人口・資本の急激な集中と、環境問題の悪化をもたらしており、この問題を解き明かすことはグローバルな課題にも応えるものになっている。

第2は、大学院教育プログラムとして、総合的で体系的な内容になっていることである。①修士・博士課程の融合教育システム、②学際的・実践的知識の習得（座学）と体験演習、アジア都市フィールド学習（実践）によって構成され、各段階で専門家に必要な鳥瞰力、実践力、国際力の育成がはかられるようになっていること。また、教育評価としてポートフォリオによる評価方法を導入して、自主的な学習過程を体系化するようにしている。

第3は、この教育プログラムの展開として、国際情報誌、国際学術誌の発行により国内外への情報発信をし、さらに、2011年10月には国際学会を設立することで、「ハビタット工学」の学際的教育研究活動の支援とアジアの都市問題・居住問題を担う専門家・研究者育成の国際的なプラットフォームを目指していることである。

以上の通り、本教育プログラムは、建築教育、特に大学院教育の発展と、アジア地域の課題に応えるという社会貢献にも大きく寄与している。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。